

平成30年北海道胆振東部地震で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。

【2018年度第3回支部研修会について】

第3回支部研修会（11月～12月頃開催予定）は、今年度は諸事情により延期させていただくことになりました。いまのところ、第4回支部研修会（2019年2月頃）と同日開催の予定にしております。第3回、第4回支部研修会ともに、日時や内容は未定ですが、決定次第、支部ニューズレターでお知らせいたします。支部会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますよう、よろしくお願いいたします。
(北海道支部事務局長 丸山)

◇◇◇◇◇臨床発達心理士会北海道支部 2018年度第1回研修会報告◇◇◇◇◇

日時：2018年5月12日（土）14：30～17：30
会場：札幌市生涯学習センター（ちえりあ）2階大研修室
（北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目）
テーマ：言葉の問題と読み書きの関係性～学習障害特性を持つ子どもへのライフステージに沿った対応～
講師：蔦森 英史 先生（北海道教育大学旭川校）
司会：橋本 竜作 先生（北海道医療大学）
就学前の子どもがことばの問題を持つ場合、その後読み書きの苦手さを持つリスクが高くなると言われ、特異的言語発達障害（SLI）の子どものうち約8.9%に発達性読み書き障害が出現するという結果が出ているということが示されました。読み書きでぼんやりしてしまったりという特徴が述べられ、次に小学校では正確さや流暢さが課題になり、全く読み書きができないわけではないが、はずかしさから無答になったり、ひらがなを多用して対応したり、読み書きに多くのエネルギーを費やして非常に疲れ、音読をひどく嫌がるようになることがあるとのことでした。また中学生になると、英語に苦手さが出てくる子が多くなったり、耳で聞いて答えることはできても、文字を見て発音したり、発音を聞いてスペルをいたりすることがとても苦手になるという結果が示されました。さらに、高校生になると、進路先の選択に苦勞し、大人になってからは読み書き困難なことが語彙力の低下と自尊心の低下につながりやすいので配慮が必要ということが述べられました。指導の参考としては、①ひらがな・カタカナに関して大体読めると言っても、3秒以上かかる場合は日常生活では使えない②仮名習得のステップとして、50音を1分30秒以内で書けるようにすることが必要である③絵を見て口頭で話してもらってから作文を書く練習をすることが効果的である④1日に10～15分であっても、学習する頻度が必要である、ということを示していただきました。最後に読み書き障害のある生徒の進路について、事例をあげて説明していただき、スマートフォンの活用や友人に聞くなど、困ったときに聞ける人・調べる道具があることが生きやすくなる条件ではないかというお話がありました。参加者は一般参加9名を含め86名でした。

(文責 石川和男)

◇◇◇◇◇臨床発達心理士会北海道支部 2018年度第2回研修会報告◇◇◇◇◇

日時：2018年5月13日（日）11:00～15:00（休憩12：30～13：30）
会場：札幌市生涯学習センター（ちえりあ）2階大研修室
（北海道札幌市西区宮の沢1条1丁目）
テーマ：WISC-IV知能検査と発達支援実践の橋渡し～つまづきの原因の理解と対応の提案～
講師：大六一志 先生（日本臨床発達心理士会茨城支部支部長）
司会：橋本 竜作 先生（北海道医療大学）
WISC-IV検査の日本版刊行委員である大六先生に、検査の概要と、4つの合成得点の解釈と支援方法、結果の伝え方について、具体例を挙げながら説明していただきました。支援の要点が2つあげられ、はじめに「熟達」についての説明がありました。発達障害児者には定型発達児者と同じトレーニングを繰り返しても「熟達」は期待できないこと、発達障害に特化した課題を楽しい課題にしなが、毎日長期にわたり少しずつトレーニングすることが必要なことを示されました。支援の要点の2つ目は「自覚と工夫」で、発達障害児者が必要な支援（合理的配慮）を自ら調達できるようにすること、周りの大人は一方的な

お世話ではなく、自覚と工夫を支えることが大切との話がありました。選択肢を与え、結果を予測させ、より良い方略に気付かせることが大切ということでした。次に言語理解、知覚統合、ワーキングメモリー、処理速度の4つの指標得点に関して、「弱さ」に対応した教材を含め対応方法を具体的に示していただきました。最後に、支援者・養育者・本人への結果の伝え方に関する説明がありましたが、知能検査の目的は、問題（主訴）の原因と対応策を知ること・伝えることであること、また最近増えてきた子ども本人への検査結果の伝え方についても示していただきました。参加者は75名でした。

(文責 石川和男)

【災害支援について】

平成30年北海道胆振東部地震で被災された皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。一日も早く、日常が戻るよう願っております。

さて、日本臨床発達心理士会災害支援委員会からの連絡は届きましたか。生活用品、文具、遊具など必要な物が足りない、支援が必要等ありましたら、お知らせください。可能な限り、対応させていただきます。

連絡先は、以下のとおりです。

日本臨床発達心理士会事務局 shikaku@jocdp.jp FAX 03-6304-5705

日本臨床発達心理士会北海道支部事務局 cdp.hokkaido@gmail.com

(北海道支部 支部長 三浦)